

三學期の保育

檜 山 京

三學期といへば一月から三月まで、その一月もはじめ一週間は休みで丁度幼稚園の始まる頃から二月の半頃まで此學期の大半は一年中の寒さの頂上です。

春から夏秋へかけて幼児の健康の爲めには出来るだけ注意して、紫外線に恵まれぬ都會生活の子等故郊外へつれ出す事にも努力し、園では室外保育も奨励し、暑い頃から涼しくなるまで裸足にしたり、うす着をすゝめ上着をぬがせ、日光浴空氣浴様々につまめては居りますが何しろ寒暑の變化を六、七回しか経験しない身體的抵抗力の少ない幼児の事故ちき寒さに冒され易く、風邪をひく、咽喉が腫れる、咳が出る、そして氣管枝加答兒や肺炎を起す等一年を通じて最も病氣缺席の多い時であります。それ故本誌十二月號にお載せ下さつた「冬季に於ける託兒所保育」「衛生訓練に就て」「冬季の保育衛生」等諸先生方のお話は私共に大に智

恵ミ力をいただきました。かような次第で他の一、二學期もさうではありますが特に此學期はまづ幼児の身體方面に特に消極的積極的に留意致します。

お母様と協力して皮膚の摩擦(乾布又は濕布し家庭で)をし保護者の希望に依て毎日肝油を服用させ(希望者だけ)一日一回以上合嗽をさせます(食鹽三重曹を微温湯に交ぜ溶かした液で)なほ外出から歸つた時は家庭でも合嗽をするように保護會の時お母様方にすゝめます(冬をひかへた第二學期の保護會の時前以てこの事をお話致して置きます)又幼児自身にも出来る丈口を閉ぢて鼻でいきを吸ふように、外を歩く時はなほの事故、歸り際などに時々注意をし、これも皮膚の一部分ですが、手の凍傷を防ぐため朝早く冷たい手をしてちかんで來た時なご代りくんに手を握つたり自分で自分の手をこするようになさせます。この際序

に長い爪は切つたり汚れた手は洗はせたりします。かやうにして一方寒さの豫防をするに同時に年長の組では、ここに身體の壯健な者には多少鍛練的に廣い運動場で走りまわる事この時もなるべく口を閉ぢるやうに鼻でいきを吸ふ事を注意しますつなひき、繩遊び、まりなげを奨励します。風あけも風につられて思はず常に元氣のないやうな子までが走りまわつて熱い／＼いふ位でよい運動なのですが運動場の立木にひつかゝつてしまふ事が多く、場所の爲に少し躊躇して居ますが場所さへよければ年長の男兒には是非奨励したい冬の遊びでありよい運動です。けれども幼児の風あけは引き風ですからあんまり風が強いとめんくらつてよくひつばれません。此頃は風の少ない温い日、雪を頂く遠い山々、お菓子の様な眞白な富士山をはるかに眺めながらさへぎる物のない廣い屋上で各組五つある風を男兒達で代り／＼に引ばりまわして居ます。勿論保母は一人必ずそばに居ります。なほ年長年少の差別なく晴天の日には朝日のよくあたる運動場で鬼ごっこ、かけっこ、紅白のボール投げ等の競争も致します、近頃は年長の男兒同志小學

校の兄様達をまねてキックボール、ゴロベース等いふ遊びをし、野球の様に點數を記入し1對3、2對6、3對數に對する興味を蹴る、打つ、走るいふ運動の愉快さ相俟て、「明日又しやうね」と毎日のようにつゞけられて居ます。かうして一方に戸外遊びを奨励するに同時に室内の溫度をあまり温すぎない様に、長く出入口や高い窓までで切りにする事のない様に注意致します。朝早くは夜中冷えた校舎へスチームがまわつて暖める時故、室をべ切ります。が、幼兒が登園しはじめると午前九時頃からは、出入口の戸が大方開いてゐますし十時頃から先お天氣のよい風のない日なら、陽あたりのよい外に面した窓をあけます風が強かつたり雨天なきの時は廊下の方の高い窓をあけ又毎日食事後の室内掃除の時は必ず外に面した窓を充分開き(但し幼兒の身體のよこかに直接すきま風の當る事は必ず注意して)一月十日頃は室内溫度がC氏九度前後一月末の最寒い頃で六度前後の溫度にし室内のみあまり暖かに過ぎない様留意します。

登園の時間が此の學期は午前九時半故晝食も十一時半か

ら十二時近くに、御飯は朝来るまで、さめない程度の保溫戸棚(あるいは金網の棚が四段あつて、下に土の火入れ二個に炭火又はたぎんを入れ置く木の戸棚)へ入れます。常からまま、この好きな女兒が此の頃は人形中心の遊びが盛で午後も午後も「さつきのつゞきしましやう」「またあしたもね」「友達同志云ひかわして楽しんでゐる位です、同じ飯事には入つても男兒はお父さんになつたり、飼犬になつてお使に行つたり、はひまわつたりして「熱いから上着ぬいてもいゝ?」「いふ位ですが御馳走をきさん、だりお人形の着物のきせかえで身體が熱くなる程の活動はなく従つて男兒に比べて、運動不足になる傾があるので子供達の大好きなスキップやラヂオ體操をさせ羽根つき風船つき、なわみび(これは年少組には二つ以上つゞけて飛べる者が少なく、年長組にもよく續けて飛べる者も飛べないものがあります。續けてミべる様になれば「また明日も」いふ程面白くなり全身の運動でよいと思はれますがスキップ程でもするこいふわけに行きません)を奨勵致します。なほ消極的には風の吹きさらす寒い所で遊ぶのを禁じて居ります。(幼い兒達は

さういふ物が成人だつたら五分も其處にちつこしてゐたら手の先が感じの無くなる程冷たくなる、風の吹き通す場所に、鼻の頭を赤くして、ねずみの様な冷たい手をして、しかも平氣でおは入りなさいと呼ばなければ何時までも其處で遊ばふこしてゐます。これは他でも經驗した事ですが、もし發育の終つた成人も發育盛りの幼兒も身體の違ひで、今迄の禁止法以外に保姆の立場をしてする方法があるかどうか、小兒衛生専門の先生の御意見を伺ひ度いと思つて居ます)。

以上は主として身體的方面の事でございますが、全園兒又は組全體が同じ目的に向つて作業したり、製作したりする年中行事又は協同遊びが社會遊びかかかふものを舉げますと、一月に郵便ごっこ、ずつこ以前は新年會なご試みた事もありましたが、松の内七日間に充分お正月を楽しんだ幼兒に更に新年會の興味はうすかつたので廢しました。二月に豆まき、梅の節句、紀元節、三月に桃の節句、卒業祝(おわかれ)の會、動物園ごっこ、人形店等があります。毎月の誕生日祝(お誕生會)も此學期から年少組が主催にな

つてお客様を迎へます。

自分で自分の事をするのが、せい、い、つ、ば、い、だ、つ、た、年、少、兒、が、追、々、多、數、の、お、友、達、と、一、緒、に、す、る、事、に、な、れ、て、來、て、お、客、様、を、迎、へ、る、の、は、ご、ん、な、に、う、れ、し、い、事、で、せ、う、招、か、れ、て、お、客、様、に、な、る、お、兄、様、お、姉、様、達、の、喜、は、勿、論、で、す。

郵便ごっこ、まづ繪はがき、はがき、封筒(横縦各種)、篋、切手(三錢切手、一錢五厘切手)を各自に作り(切りぬきのりつけ、模様塗り又は芋型押しで約十日間)それを集めて賣ります、お金は一錢を六つづゝ作り(幼兒の希望で穴のある五錢も作る)各自が自作のがま口に六錢づゝ入れ足りないのは後から足りないだけ入れて賣買をします赤塗のポスト一つ保母と幼兒の協作で廊下に立て、各組の受けポストも同様にして作り室の出入口に取りつけます、集配人のかばんも協作で出来、午前は誰、午後は誰明日は誰と男兒は代りくゝに配達人になります、左の肩に切手をはる事、あて名と差出人の氏名の書き場所、文句・此言葉は幼兒間には通用しません、實際の文句たゞへば「オメデトウ」か「オカゼハイカッデスカ」か云つての書く場所を説明しま

す。年賀狀以外實際手紙のやりこりの經驗をあまり持たない多くの幼兒は、この文句の内容に困る事がありますが、返信の時には「アリガトウ」いふ言葉があるのでそんなに困らない様子です、字のかける、かけないの多少、あそび友達のいろくゝに依つて、たくさん手紙を出す者、受ける者少しも受けない等の差が出て來ますので保母も通信の來ないらしい處へ出します。そして返信かきかじまるので皆の遊びになります、自分の組のお友達、年少い組へ、年長組へ、ご追々通信が繁くなるにつれて興味が増し朝來るごすぐ自分の「狀さし」を見て、「來たく返事が來た」ごまたそれに返事を書いて居ます。狀差しはやつぱり自作で、配達人がわかりよい様に名前を自書してあります。一つの組に衝立式の郵便局が出来、其處では集つて來た書信に切手のある無しを調べて、切手のあるのにスタンプを押し、更に受け箱へ配ります。集配人は各組から出ますから三人位づゝ居るわけです。長く病氣で休んで居るお友達にほんごうに手紙を出したり、自分の家の所番地をはつきり知つたり、お友達の名がたくさんある事がわかつたりしました。

そして殆ど一月中の續いた遊びになりました。

節分は豆まきといふ事實ミ、その準備ミして鬼や福の面を作つたり柵を作つたり、豆まきのお話、唱歌、遊戯等で前の準備に三、四日も費すだけで後まで遊びの發展する行事ではありません。梅の節句は童話、歴史話、神話が中心で唱歌や觀察、製作が少し加はります。桃の節句は大體が製作中心で、前以ての準備が各自の製作にもなり協同の製作にもなります。人形店はこの行事に續くつもりで、これ以前にやはり製作中心で致しますが、齎買といふ事があるので男女共に興味を持ちます。桃の節句の當日は女兒を主人役にするので、女兒の作業ミ申しますか、する事が中心の様になります、皆で唱歌や遊戯を代り／＼に致しますから、女兒のみの興味中心にはなりません。卒業お祝(お別れの會)は年少組の前以ての製作や當日の作業が中心になり祝はれる(送られる)子供の遊びや唱歌遊戯も映畫もあつて、年長組の最後の幼児生活を存分に楽しくすごすのを目的とします。動物園、こつこは必ずこの學期に限るわけではなく二學期で出来ますが、製作、中心で文字も出て來ま

すから時間があればこの學期の方が觀察や製作、遊びがいろ／＼に發展する事が出来ます。

節分以後の遊びについては具體的に記しませんで大ざつぱに走り書きをしてまゐりましたが、この學期になりました、年賀狀ミかお正月の休み中の「かるた」「すゝこ六」の影響でもありませうか、殊に年長兒は讀字欲が驚く程盛になります、それで食事の準備當番、唱歌の歌詞、仕事の役割ミか其他の用事を言葉で傳へるミ同様片假名で揭示致します、「イロハかるた」も様々の種類を揃へて置き、子供同志で讀み取りをしたり保姆もは入つて取り札を何枚?ミ聞いたりします、毬、羽根、風船をつく事に依て、第一には一つ年が増えていくつになつたミ云ふ事に依て文字よりは後れる様ですが數へる事にも興味を持つて來ます。それで遊戯の時にも二人づつミか三人づつミか、二番目三番目ミか又赤白に分れた時番號を云つて人數を同じにするミかいふ事が幼兒達に望ましい、楽しい事になつて來ます。運動の處で記しましたキックボールの點數を野球の表の様に數字で記入してゐるのを見うけます。(尤もこれは小部分の幼

兒ですが)

特に小學校に入る準備云ふではありませんが、身心の發達が正常でないように思はれる時又特別な學校へ検定を受けに行く事がわかつてゐる時には區兒童相談所の心理係の方に智能検査をしていただきます。又小學校に入つて常識的に不便を感じない爲めに左右、前後、上下、横縦向、

こつち(手前)斜等日常生活に必要な言葉と實際を、自分で見分け聞き分けの出来る様にさせます。畫を描いた時、製作をした時、自分で氏名又は名だけ或は姓だけ書かせる事に依つて自分の名は口でも云へ片假名(漢字で理解出来るは少数)ならば讀みも書きも出来るようになります。但し書くこゝいふだけで幼児は○や□を描くと同じ心算で書いてゐますから、書き方の指導はしてありません。

なほ身體方面で壯健な年長兒の爲めに丁度よい降雪があれば雪合戦、雪だるまを保姆も一緒に致しますがこれは、土地がぬれてゐたり、折角積つても溶けはじめたりするに出来ないで、出来る年々出来ない年々あります。此の間の二十二日の雪がもう一晩おそく降つたら月曜日の午前

に、雪の中で遊ばせられたのに、雪合戦をしたがる子供と同じやうに、溶け行く運動場の雪を私共も残念がつて眺めました。何處の園でもなさつていらつしやる事を、ここから立て貴重な紙面を費しました事をおわび申し上げます。たゞありのまゝを述べて皆様の御教示をあふぎ度いと思ひます。

